

複側面的体系のコミットメント意味論

野上志学 (Shigaku Nogami)

三重大学人文学部

Ian Rumfitt は "Yes' and 'No" (Rumfitt 2000) において双側面的な自然演繹の体系を提示した。これは **assertion** だけでなく **denial** ないし **rejection** を認めることによって、調和的な自然演繹の体系でありながら、直観主義論理ではなく古典論理の帰結の形式化とみなせる体系の提示を目論んだものであった。これに対して、Dickie (2010) は我々の言語行為において **rejection** は **assertion** に比して、それを支える証拠にかんして特定のでなく、**rejection** が正当化されるが、**reject** される文の否定が正当化されないような事例があることを指摘して、Rumfitt の双側面的体系を用いるプロジェクトを批判した。

Luca Incurvati と Julian Schloder は、Dickie の批判に応答すべく、一連の著作 (Incurvati and Schloder 2017, 2019, 2023) で **assertion** や **rejection** だけでなく、**weak rejection** という言語行為を取り込んだ自然演繹体系を提示してきた。これは、複側面的な (multilateral) 体系と呼ばれる。最近の著作 (Incurvati and Schloder 2023) においてはこの複側面的体系のさまざまな応用、例えば、メタ倫理学における Frege=Geach 問題への対処、認識的様相の扱いなどが提示されている。

本発表では、Incurvati と Schloder の複側面的体系についてコミットメント意味論の観点から検討を加えたい。コミットメント意味論とは、もともとメタ倫理学において Simon Blackburn (1988) が提示したものである。本発表では、Blackburn のアイデアを彼自身の (半) 形式化とは異なる形で発展させ、複側面的体系の意味論を与える。具体的には、直観主義論理の意味論として考案された Beth 意味論 (Beth 1959, Dummett 2000) の木構造をコミットメントの形式的表現のために転用する。

コミットメント意味論を複側面的体系に用いることは恣意的な発想ではない。というのも、「コミットメント」という概念は、Incurvati と Schloder の体系のインフォーマルな説明にはたびたび登場するからである。(ただし、彼らの形式的な意味論の中にはコミットメントに対応する要素は見当たらない。) コミットメント意味論を手立てとして、Incurvati と Schloder の複側面的体系がどのような哲学的前提に基づいているかを明らかにすることが、本発表の最終的な目的である。

Blackburn, Simon (1988). Attitudes and contents. *Ethics* 98 (3):501-517.

Beth, Evert Willem (1959). *The foundations of mathematics*. Amsterdam,: North-Holland Pub. Co..

Dickie, Imogen (2010). Negation, anti-realism, and the denial defence. *Philosophical Studies* 150 (2):161 - 185.

Dummett, Michael (2000). *Elements of Intuitionism*, 2nd ed. Oxford University Press UK.

- Incurvati, Luca & Schlöder, Julian J. (2017). Weak Rejection. *Australasian Journal of Philosophy* 95 (4):741-760.
- Incurvati, Luca & Schlöder, Julian J. (2019). Weak Assertion. *Philosophical Quarterly* 69 (277):741-770.
- Incurvati, Luca & Schlöder, Julian J. (2023). *Reasoning with attitude: foundations and applications of inferential expressivism*. New York, NY: Oxford University Press.
- Rumfitt, I. (2000). Yes and no. *Mind* 109 (436):781-823.